2024 年度

自己点検・自己評価結果報告書

2025 年 3 月

ベルランド看護助産大学校

学校評価委員会

はじめに

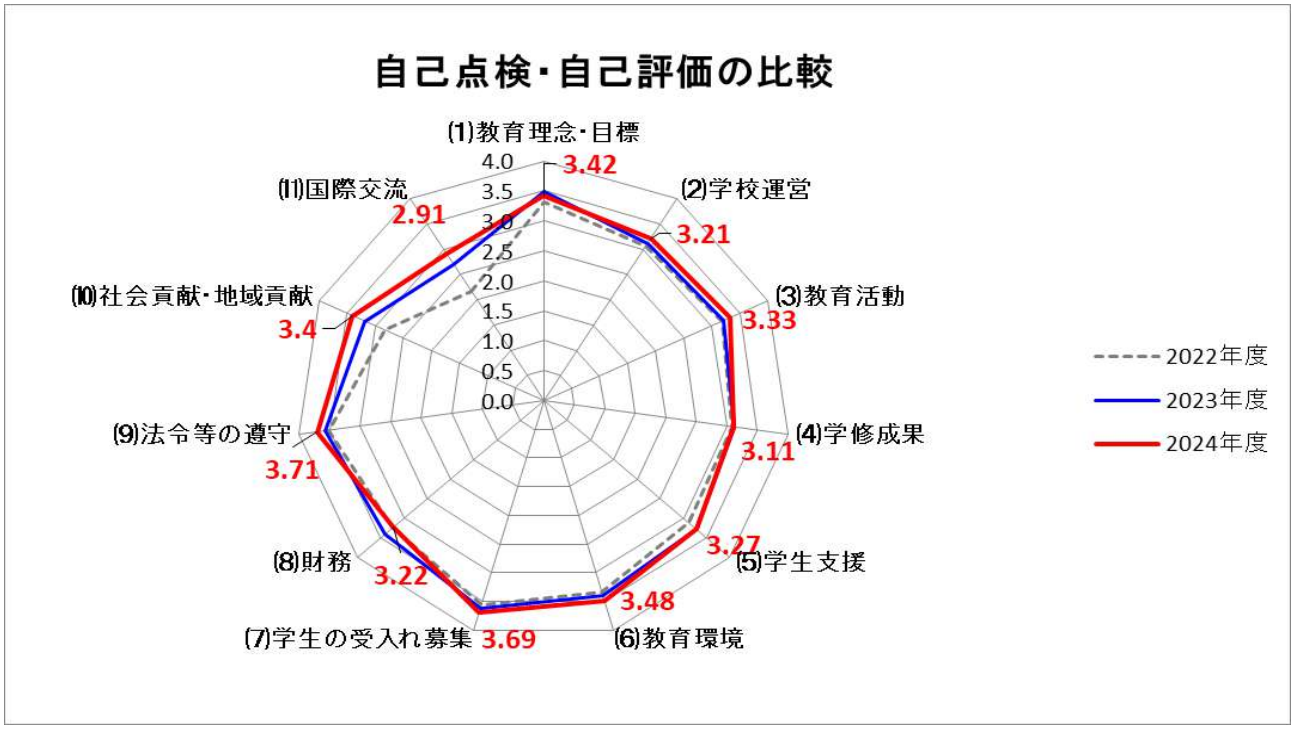
自己点検・自己評価の目的は、教育の質の保証及び水準の向上、教職員の学校運営に対する意識啓発、社会への説明責任を高めることである。

本校では、2014 年に自己評価を実施、2015 年には学校関係者評価委員会を立ち上げ、学校の評価委員会による学校評価、その結果に対しての学校関係者評価委員会からの助言提言の実施を継続し、その結果をホームページで公表している。またその他の学校評価の一連の取り組みを通して学校運営の改善を目指す PDCA サイクルは整ってきている。今回は自己点検・自己評価が低下した 2022 年度から比較し、その変化から取り組みと課題を分析し、報告する。

対　　象：教職員　28 名（学校長を除く）
調査期間：2024 年 11 月 25 日～2024 年 12 月 28 日
調査方法：学校 WEB システム教職員ネットワークを用い、無記名にてデータを入力する。データ入力後は、個人が特定できないように保存し、学校評価委員会でデータを取り扱う。専任教員か事務職員の属性と所属について回答するが個人を特定しないことを条件とし依頼した。
評価尺度：４＝適切　３＝やや適切　２＝やや不適切　１＝不適切　わからない　の４尺法
　　＊評価したその理由と改善の提案を自由記載
有効回答数：事務職　6 名(100%)
　　助産学科専任教員　3 名(100%)
　　高度専門看護学科専任教員　19 名(100%)

全体結果

	大項目別平均			前年度比
	2022 年度調査	2023 年度調査	2024 年度調査	
⑴教育理念・目標	3.32	3.49	3.42	98.32%
⑵学校運営	3.07	3.12	3.21	103.19%
⑶教育活動	3.18	3.21	3.33	103.73%
⑷学修成果	3.09	3.12	3.11	99.59%
⑸学生支援	3.12	3.28	3.27	99.72%
⑹教育環境	3.33	3.40	3.48	102.37%
⑺学生の受入れ募集	3.56	3.61	3.69	101.71%
⑻財務	3.24	3.41	3.22	94.31%
⑼法令等の遵守	3.52	3.57	3.71	104.22%
⑽社会貢献・地域貢献	2.83	3.19	3.4	106.80%
⑾国際交流	2.17	2.70	2.91	108.23%
全項目平均	3.13	3.28	3.34	102.02%



全体結果：全体の平均値は、2022 年度 3.13、2022 年度 3.28、2023 年度 3.34 であった。
評価項目すべての全体評価では、2021 年度から上昇を続け、2023 年度との比較でも 102.02%上昇した。
＜大項目別の比較＞

11 項目中、**(2)学校運営(3)教育活動(6)教育環境(7)学生の受入れ募集(9)法令等の遵守(10)社会貢献・地域貢献(11)国際交流**の 7 項目が上昇した。特に上昇したのは**(10)社会貢献・地域貢献(106.8%)(11)国際交流（108.23%）であった。3.5 以上の高評価は（7)学生の受入れ募集 3.69（101.71%)、(9）法令等の遵守 3.71（104.22%）**であった。**(1)教育理念・目標(4)学修成果(5)学生支援(8)財務**の 4 項目の評価が低下した。**(8)財務**以外の低下は僅かであった。

＜小項目の比較＞
65 項目のうち評価が**上昇した小項目は 41 項目**であった。
（うち 0.3 ポイント以上上昇）

① 4)理念・育成人材像等を学生・保護者等に周知　前回の 3.11 から 3.44 へ(前回対比 110. 57%)
② 9)人事、給与に関する制度の整備　前回の 2.96 から 3.42 へ(前回対比 115. 26%)
③ 42)高校との連携による職業教育の取り組み　前回の 3.20 から 3.52 へ(前回対比 110. 00%)
④ 55)自己点検自己評価と問題点の改善　前回の 3.35 から 3.67 へ(前回対比 109. 58%)
⑤ 57)教育資源や施設を活用した社会・地域貢献　前回の 3.19 から 3.52 へ(前回対比 110. 27%)
⑥ 60)海外研修派遣・海外教育機関との連携　前回の 2.80 から 3.26 へ(前回対比 116. 46%)

評価が**低下した小項目は２４項目**であった。
（うち 0.3 ポイント以上下降）

① 31)卒業生の社会的な活躍を把握　前回の 2.78 から 2.44 へ(前回対比 87.85%)
② 41)社会人のニーズを踏まえた教育環境　前回の 3.19 から 2.80 へ(前回対比 87.76%)
③ 50)予算・収支計画は有効かつ妥当　前回の 3.42 から 2.91 へ(前回対比 85.14%)

(1)　教育理念・目標

教育理念・目標の大項目平均は、3.49 から 3.42 の前年対比 98.32%と僅かに低下した。しかし高い評価は維持されており、教職員において理念・目標・教育人材像は周知できていると考える。その中でも、小項目での 4)「理念・目的・育成人材像・特色・将来構想など学生・保護者等に周知されている」が 3.11 から 3.44 の 110.57%と大きくが上昇した。今年度は、ホームページの刷新による発信や定期的に保護者会を開催し、丁寧に説明できていることが評価につながっていると考える。3)「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いている」は 3.45 から 3.17 の 91.83%と低下し、「やや不適切」「不適切」と回答したものが 18%、「わからない」が 14.3%であった。中期的視点で変化する社会情勢を踏まえた現状評価から将来構想について具体的に定める必要がある。

(2)　学校運営

学校運営の大項目平均は、3.12 から 3.21 の前年対比 103.19%であった。小項目 8 項目中 6 項目が上昇しているが、その中で 9)「人事、給与に関する整備はされている」2.96 から 3.42 の前年比 115.26%と大きく上昇した。低下した 2 項目は、6)「理念・目的に沿った運営方針が策定されている」3.42 から 3.25 の前年比 95.12%、7)「理念を達成するための事業計画と運営方針が策定されている」3.42 から 3.24 の 94.83%であり、やや不適切、不適切の合わせた回答がそれぞれ 14%・18%と多くなった。運営方針は策定され明確であるが、執行体制や業務分担の適正さや進捗管理状況の明確さ等に関しての改善が必要と考える。評価が 3.0 未満の項目は、10)「教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されている」2.87 から 2.95 の 102.80%、13)「情報システム化による業務の効率化が図られている」2.72 から 2.77 の 101.66%であった。運営組織や意思決定機能は、規定等により明確にはされているが、人的、時間的に余裕がなく、有効に機能できていない。権限が明確であっても実行するには支援が必要と考える。今年度、教員全員に iPad が貸与され、ICT 利活用は進んでいるものの業務改善や時間管理としての活用までに至っていないことが原因と考える。

(3)　教育活動

教育活動の大項目平均は、3.21 から 3.33 の前年対比 103.73%で上昇した。評価が 3.5 以上と高い項目は、14)「教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されている」3.69、15)「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている」3.54、16)「学科等のカリキュラムは体系的に編成されている」3.57、21)職業に関する外部関係者からの評価を取り入れている」3.72、22)成績評価・単位評価の基準は明確になっている」3.56 の 5 項目であった。新カリキュラム運用から 3 年経過し、定期的に教育課程の評価し、改善に取り組んできた。高度専門看護学科においては、教育内容の重複や時間数を見直し、効果的・効率的に学修成果が得られるよう教育課程変更に取り組んだ。評価が 3.0 未満の項目は、24)「人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している」2.54、25)「法人内施設との連携において、専門分野の優れた教員を育成及び確保するなどマネジメントが行われている」は 2.83 であった。看護教員の充足については、ガイドラインに抵触していないが、カリキュラムを効果的に運用するための必要数は確保できて

いないと考える。教員資格未修得の教員も在籍しているため、大学での教育科目単位の修得や専任教員養成講習の受講など支援の継続が必要である。

(4) 学修成果

学修成果の大項目平均は、3.12 から 3.11 の前年対比 99.59%であった。評価が 3.5 以上と高い項目は、29)「資格取得率の向上が図られた」3.36 から 3.52 の 104.85%であった。国家試験合格 100%は、高度専門看護学科 3 年連続、助産学科 12 年連続を達成できている。入学当初より、日々の授業にとどまらず、国家試験対策ゼミ等を計画的に支援していることや全教員が一丸となり取り組んでいることが大きいと考える。評価が 3.0 未満の項目は、31)「卒業生の社会的な活躍および評価を把握」2.44、32)「卒業後のキャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善に活用」2.94 であり評価が低い状況が継続している。引き続きホームカミングディ、同窓会活動を通して職場での活躍状況を把握するとともに、法人及びその他卒業生の就職先との連携を図り、在学中の教育活動を評価する視点を明確にして取組む必要があると考える。

(5) 学生支援

学生支援の大項目平均は、3.28 から 3.27 の前年対比 99.72%であった。評価が 3.5 以上と高い項目は 35)「学生の経済的側面に対する支援体制は整備されている」は 3.59、39)「保護者と適切に連携している」3.50、42)「高校・高等専修学校等の連携によりキャリア教育・職業教育取組が行われている」3.52 であった。経済的側面に対する支援は、事務部を中心に法人の奨学金制度や公的奨学金についての案内を実施し、個別の相談への対応など手厚く実施している。また入学生の現況により支援が必要な学生も増え、身体的・精神的面への支援にも時間を要している現状もある。2024 年度は、学生相談窓口についてをポスター等で案内し、やカウンセラーの相談窓口への連絡・手続きを電子化したことで利用しやすくなったと考える。 評価が 3.0 未満の評価は、40)「卒業生の支援体制はある」2.92、41)「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている」2.80 であった。今年度、助産学科は、卒後 1 年目の研究活動を支援した。今後も卒業後の研究活動やキャリアアップのための支援活動についても考えていく必要がある。

(6) 教育環境

教育環境の大項目平均は、3.40 から 3.48 の前年対比 102.37%であった。43)「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されている」は 3.32 と僅かに低下していた。校舎を新設して 9 年が経過しているので設備等の整備、修繕が必要な状況があるため、計画的に取り組んでいく必要がある。WiFi 環境に関しては継続的に改善を試みているが、万全には整備できていない部分もある。44)「学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備している」3.52、45)「防災に対する体制は整備し適切に運用されているか」3.61 と高い評価であった。

(7) 学生の受入れ募集

学生の受入れ募集の大項目平均は、3.61 から 3.69 の前年対比 101.71%であった。18 歳人口の減少による学生確保が難しくなっているが、学校運営の学生確保チームを中心に趣向を凝らしたオープンキ

ャンパス、インスタグラムなどを検討しての積極的な取り組みが行われている。また今年度は、予備校講師を招いて受験対策講座を開催するなど、より一層の招致活動が評価されたと考える。しかし今後も18歳人口減少に対し、視点を変えた新たな活動を検討する必要に迫られている。

(8) 財務

財務の大項目平均は、3.41から3.22の前年対比94.31%と大きく低下した。中でも49)「中長期的に学校の財務基盤が安定しているといえるか」は2.92から2.73、50)「予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている」3.42から2.91と低下した。また4つの全項目に対して「わからない」と回答した者が50～60%を占めるため、中長期的な財務基盤の考え方と安定するための方略等具体的な計画について教職員に周知する機会を設ける必要がある。

(9) 法令などの遵守

法令等の遵守の大項目平均は、3.57から3.71の前年対比104.22%と上昇し、高い評価であった。54)「個人情報保護の対策」3.44以外の項目は、3.64～3.95と非常に高い評価となった。個人情報保護に関する取り扱い方針・規定を定めて運用しているが、時に個人情報の保護に関しての問題となる行動もあるため、引き続き個人情報管理についての啓発、教育を教職員・学生に実施していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献の大項目平均は、3.19から3.40の前年対比106.80%であった。57)「学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている」は3.52、58)「学生ボランティア活動を推奨支援している」は3.68と非常に高かった。科目「キャリア支援2」でもボランティア活動の推奨及び支援している。学生自身もボランティアサークルを立ち上げるなどあり、学生のボランティア活動も増えてきている。学校施設利用に協力　学校外の外部講師や要請された施設への健康教育も組織運営役割として参画できていることが評価に繋がっている。

(11) 国際交流

国際交流の大項目平均は、2.70から2.91の前年対比108.23%と上昇した。高度専門看護学科は、2年目となる「キャリア選択Ⅱ」の海外研修を執行している。旅費の高騰があり、研修先をアメリカ(ロサンゼルス)からオーストラリア（ブリスベン）に変更し、学生15名と引率教員3名が参加した。私立総合病院見学、総合大学（看護学部）学校見学と看護学生との交流、高齢者施設見学と入居者との交流　日本人看護師セミナーなどの研修を通してオーストラリアでの医療・福祉の理解を深めるとともに日本の医療について考えることができていた。また、異文化交流を通し各々の学生が自己の課題を明確にする機会となっていた。